

【1.体制】

(1) 診療放射線技師6名で業務を遂行し、主な業務は一般撮影、CT、MRI、骨密度測定、造影透視で、救急外来に対しても24時間の対応を行った。また健診において胃透視、マンモグラフィ、体組成・骨密度測定、腹部超音波検査などを行った。

【2.取組内容と実績】**(1) 放射線機器について**

老朽化による修理が外科用イメージ装置で行ったが、その他の装置に関しては更新作業も終了し、概ね平常通り稼動することができた。機器メーカーや済生会熊本病院中央放射線部とも情報を共有し、機器の調整や撮影条件など適宜改善等を行うことができた。

外科用イメージ装置や3Dワークステーションなどに関しては、関連部署とも協議しつつ費用対効果など踏まえ更新の検討をしていく。

(2) 遠隔読影診断の支援

実績：CT検査1042件、MRI検査664件、マンモグラフィ検査221件、胃透視検査174件、一般撮影1561件

遠隔読影会社とも情報共有し、当院医師と読影医師との橋渡し役も行い、円滑な読影結果を提供した。

(3) 技術連携について

済生会熊本病院中央放射線部と定期的に意見や情報の交換を行い、連携強化に努めてきた。PERIO-DXプロジェクトにおいて中央放射線部としっかり連携することができた。当院での今後の動きに寄与することができるよう情報の共有と連携に努めていきたい。

(4) 放射線管理体制の維持

放射線管理委員会を開催し、定例報告や放射線測定パッチの使用状況等の更新を行った。また、6月1日に“診療用放射線の安全管理に関する研修会”をWeb上で開催した。受講率は96%であった。

(5) 職場環境について

ワークライフバランスを重視し、各人が仕事と生活の両立をできるような部署を目指し、年間休暇の取得や突発的な休暇もフォローできるような体制を確立した。また当直業務に関しても相互の理解の中でスムーズに遂行できるように適宜検討を行った。

【3.今後の課題】**(1) 放射線に関する院内向け情報提供と教育の継続実施**

放射線被ばくや安全管理に関する情報を院内へ発信し、放射線検査に対する意識を高め、放射線被ばくや安全管理に関しての啓蒙を行っていく。研修会の内容などもしっかり検討し、安心安全な検査の提供を実施していきたい。

(2) 他職種を含めた業務の効率化の継続実施

限られた人員・職種で円滑に業務を行えるように関連部署とは常に連携をとり、適宜改善策を検討し実施していきたい。診療支援部や外来など大きな枠組の中で当部署の役割と連携強化に努めていきたい。